

3rd *Pneumocystis carinii* Workshop に参加して

高体質学研究所
和田 美紀



オープニングレセプションに使われたクリーブランド大学内の由緒ある建物のマザーマンション



6月下旬にアメリカ、クリーブランドで開催された*Pneumocystis carinii* Workshopに参加してきました。本ワークショップはアメリカ原生動物学会に併せて3年ごとに開催されているもので、今回で3回目になります。本ワークショップは、私たちの研究する*Pneumocystis carinii*に関する最新の研究知見をまとめて得るには最適と考えられることから是非参加したいと希望したもので、医科学研究所国際交流基金の助成により参加できたことを、種々の形で本基金に関係された方々に感謝致しております。

私にとっては初めての英語での発表ということで、自分の発表までは緊張ばかりでした。想像していたのとはずいぶん勝手が違いました。発表用のスライドを渡そうと思っても渡す場所が見つからず、受付で聞いても発表する部屋に持っていきってくださいと言われるだけです。スライドを送ったりフォォーカスをあわせたりするのも自分で行

わなければならないことに気づき、マイクは胸につけるタイプで…等々。不安は募る一方でした。無事に発表、質疑を終えた時には心からホッとしました。幸いなことに私の発表はワークショップ全体の2番目だったので、このあとは落ち着いて研究報告を聞くことができました。

口演のセッションは、*P. carinii*の分子生物学、生化学、宿主の防御、診断、治療などの内容が6つに分けられており、セッション毎にイントロダクションがあったのが自分のテーマと少し離れたところでも理解の助けになりました。また、各セッションの最後には設

定テーマについてラウンドテーブルディスカッションが行われ活発に討論されました。例えば私が発表したThe surface of *P. carinii*でのテーマは主要表面抗原のノーメンクレーチャーに関するものでした。ポスターは約40題ほどの発表がありましたが、発表時間が一時間半で、私にとっては自分の最も興味ある部分をみるだけで精一杯だったのが少し残念な気がしました。

本ワークショップに参加して多くの新しい研究報告を聞いたこと、また、自分なりに他の研究者とディスカッションできたことは今後の研究に役立つ有意義なものであったと思っています。

編集後記

有能な編集委員の方々の陰に隠れ、なにもしないうちに4号を出すまでになりました。年6回発行を目標にとにかく医科研NOWを発行しようということを目指して素人集団で、どんなものが出るかわからずに、勢いでなんとかここまでできました。しかし、これから読者のみなさまの応援（声援、ご批判）無

しにはやっていけませんので、いろいろなご意見をお待ちしています。編集部の方針として、1年単位で医科研NOWの紙面の見直しをしようということになっていますので、すぐにご意見が反映するわけではありませんが、7号がでる頃には読者の皆様にご満足してもらえるものができあがると思います。 ㊞